



MEITOKU JOURNAL



アクアテラス (リビングダイニング)

2021 SUMMER

特集

ごあいさつ
2021年度事業方針

RELIEF SAFETY RELAX

PICK UP!
障がい者グループホーム
アクアテラス
AQUA TERRACE

SUPPORTER

サポーター
きらら歯科クリニック

Face
フェイス

NEWS

熊本市障がい者
相談支援センター
チャレンジ

「ソーシャルワーク実習
お世話になりました」

■ THANKS FEEDBACK

RELIEF SAFETY RELAX MEITOKUKAI

2021年度 事業方針

特集 ごあいさつ



チャレンジめいとくの里
ケアビジネス
統括施設長
石井康就

この度、平川施設長の後任といたしましてチャレンジめいとくの里施設長として選任されました。はなはだ微力ではございますが、歴代の施設長が築き上げられたものを大切に誠心誠意努めてまいりたい所存です。これから前任者同様、皆様のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年に入所施設からスタートして、チャレンジめいとくの里も今年で17年目を迎えます。その間に社会福祉の情勢も大きく変化し、その時々で色々な課題や困難な状況を数多く経験してきました。その度に、皆様からのお力添えもあって乗り越え、今日まで成長していくことが出来たことに大変感謝いたしております。現在も新型コロナウイルスの感染拡大の影響の中、震災以来の危機的な状況にみまわれています。自施設でも対応に苦慮しながら何とか毎日をご過ごすことができている状況で、一刻も早くワクチンの接種、特效薬ができることを切に願っているところです。現在ワク

チン接種に関しては熊本でも一部スタートしている状況ですが、まだご利用者様、職員ともいつ接種できるかは不明な状況にあります。始まればすぐにスタートできるよう準備だけはしっかりと進めていきたいと思っております。(この広報紙が発行される頃にはワクチン接種が進んでいることを願っています)入所の方は施設対応で実施する方向になるのではないかと予想しておりますが、通所の方に関してのワクチン接種はまだどのような形が良いのか現在検討中で未確定の状況です。実施にあたって場所や医療体制等、環境の準備や接種にあたっての同意書など、事前の準備を行いながら、詳細が決まり次第ご利用者様並びにご家族様へもお知らせしたいと思っております。しかし、ワクチンの接種ができたとしてもまだまだ、このコロナ禍は続くことが予想されています。今の状態は私たちの法人の経営思想でスローガンの中にも掲げている「安心、安全、安らぎ」の根

幹が脅かされている状況にあります。安心・安全だけを考えず、またご利用者様、職員ともいつ接種できるかは不明な状況にあります。始まればすぐにスタートできるよう準備だけはしっかりと進めていきたいと思っております。(この広報紙が発行される頃にはワクチン接種が進んでいることを願っています)入所の方は施設対応で実施する方向になるのではないかと予想しておりますが、通所の方に関してのワクチン接種はまだどのような形が良いのか現在検討中で未確定の状況です。実施にあたって場所や医療体制等、環境の準備や接種にあたっての同意書など、事前の準備を行いながら、詳細が決まり次第ご利用者様並びにご家族様へもお知らせしたいと思っております。しかし、ワクチンの接種ができたとしてもまだまだ、このコロナ禍は続くことが予想されています。今の状態は私たちの法人の経営思想でスローガンの中にも掲げている「安心、安全、安らぎ」の根

令和3年4月1日付けで、副施設長兼通所部サービス管理責任者を拝命いたしました。

これからは、「施設入所支援」や「ゆめくらしワークス事業」に至るまで、幅広く業務に携わらせていただく重責に身の引き締まる思いであります。何卒よろしく願いいたします。

さて、今回は通所部(生活介護)のサービス管理責任者として、令和3年度の通所部の取り組みについてご紹介させていただきます。

●日中活動について
活動グループを①ココスポ(運動)②アート(アート活動)③オーパス(生産活動)に分けて日中活動を提供、外部講師は、昨年度から引き続き3B体操、音楽療法に加えて、今年度はダンススタジオからインストラクターの先生をお呼びして、ダンスレッスンを実施いたします。年間のイベントとして、夏フェス、ハロウィン、クリスマス会、春祭りを計画しております。

日中活動の様子については、通所部専用の「LINE」や明徳会のホームページにあるブログを活用して、情報発信を行っていきます。

●社会生活支援について
日本知的障害者福祉協会は、厚労省からの意見聴取の際に、日中の暮らしを支える「生活介護」について、「障害者の自立と社会参加を促すことを明確にしたい」として、名称を「社会生活支援」に改めるよう求めたこととあるように、生活介護事業を展開するうえで「利用者の方の社会参加」は重要な支援です。

通所部では、2年前から交通公共機関を利用した外出や近隣施設の利用等を実施していましたが、新型コロナウイルスの影響で外出が出来ない状況になりました。そこで、近隣の飲食店を活用したテイクアウトや移動販売車の利用等、現在の社会様式に合わせた社会生活支援を実施しております。

●支援の質向上について
通所部では、毎月内部研修を実施しております。今年度は、各支援員が日中活動や担当ご利用者の取り組みについて事例を発表。支援者間の情報共有と検証をいたします。支援内容については、ご家族にも配布していきけるように準備を進めております。

今年度も新型コロナ対策により、施設内でも「新様式」での対応を行って参ります。皆様のご理解とご協力をお願いいたします。



チャレンジめいとくの里
通所部マネージャー
内田由和

今年度から入所サービス管理責任者に任命されました、酒井誠です。今後ともよろしく願います。

まず始めに私の紹介をさせていただきます。チャレンジめいとくの里開所時から16年間、現場の生活支援員として働きながら、特に入所ご利用者様とは長い時間一緒に過ごさせていただきました。今でも入社当時のことは鮮明に覚えています。ただ無我夢中で走り続けた日々、ご利用者様やご家族から元気と勇気をもらうことで現在まで仕事を続けることができました。これからサービス管理責任者として、ご利用者様の「安心・安全・安らぎ」を念頭に置いて、日々の業務に励んでいきたいと思えます。

前年度はコロナ禍の中、ご利用者様やご家族の方々には不安な日々を過ごされたかと思えます。「安全確保」「感染拡大防止」などご利用者様の生活や帰省の制限をかけるなど、安心した生活を全体的に送れるように配慮を行って参りました。その反面、ご利用者様に「楽しみ」を提供できる機会が少なかったように感じます。昨年度の反省を活かして、今年度の入所部の事業方針では【withコロナでも「楽しみ」を】を掲げ、「ご利用者様の楽しみ」を考えた入所部独自のグループを作っています。少数でのグループ外出(ご利用者様の特性に合わせたグループ分け)・ミュー販売会(年3回程度)・ブログの定期的な更新など、昨年度に実施できなかったご利用者様の楽しみや「願い」を叶えていきたいと思えます。また、「楽しみ班」以外にも「作業班」「個別活動班」の3グループ体制を作り、昨年度をベースに活動内容を各グループリーダーを中心に取り組みながら、よりご利用者様の特性に合わせた活動内容の提供ができるチーム作りを行っています。まずはご利用者様の「気持ちに寄り添う」気持ちを大切にしていきたいです。

入所の生活場面では新たに男性マネージャー樗支援員、女性マネージャー前田支援員を中心にご利用者様の安心した生活が送れるように、各担当職員と細かい情報交換を行い支援に取り組んでいます。また、健康面では医務課・栄養課と連携を図りながら、ご利用者様の健康管理と健康に過ごせる環境作りを目指しています。

新しい体制の中で不安に感じている職員や、担当職員変更により生活に支障が出るご利用者様もいるかもしれません。その中でも「ピンチをチャンスへ」の運営ポリシーを念頭に置きながら、チーム全体でこの状況を乗り越えていきます。



チャレンジめいとくの里
入所部 女性棟マネージャー
前田友里加

今年度、通所部マネージャーに就任いたしました、内田由和(ゆか)と申します。めいとくの里に入職し、今年で10年目、通所部では3年目になります。まずは私の自己紹介をいたします。私の姉は知的障がいを持っており、小さい頃から障がいを持っている方と関わる仕事に就きたいと思っていました。九州ルーテル学院大学の心理臨床学科に入学し、サークルでは自閉症支援部に入っていました。その時初めて自閉症の子もたちやそのご家族と関わりました。心に響く衝撃が大きかったことを覚えています。もっと関わりたいと思い、児童発達事業所でのボランティアにも参加し、様々な障がいを持っている子どもたちと関わる事ができました。その中で、「この子どもたちが大きくなった後、どのような生活を送っていくのだろうか。充実した人生を送れるサポートがしたい。」と考えるようになりました。それが、チャレンジめいとくの里に入職した動機です。「ご利用者様の将来を見据えた支援」を大切に、日々支援を行っています。

去年に引き続き、今年も新型コロナウイルスの感染対策を行った上で日中活動の提供となります。その制限のある中で去年実施してきたイベントや社会生活支援等、去年よりもパワーアップした1年になれるように努めていきたいと考えています。みなさんの笑顔がたくさん見ることができるよう、通所職員一同ワクワクするイベントを考えていきます。



チャレンジめいとくの里
入所部サービス管理責任者
酒井誠

今年度、入所部女性マネージャーを務めさせていただくことになりました。明徳会に入社し八年目となり、入所部のマネージャーを務めるのは三年目になります。

毎年様々な出来事や学びがあり思い出深い一年となりますが、昨年度は新型コロナウイルスの影響により色々なことが制限され生活スタイルがガラッと変わり、不安と戸惑いを感じた一年でした。今までに経験したことのない事態に陥り、色々なことが制限される中、ご利用者様への「楽しみ」を提供する機会が少なかったことが昨年度の私の反省点です。しかし、このような厳しい状況の中でも出来る事を考えたり、このような状況だからこそ感染対策や健康管理など今まで以上に徹底して行ってきたところもあり、普段とは違った視点で物事を見るようになり新たな気付きを得た一年でもありました。新型コロナウイルスの終息が見えない中、新年度を迎え例年とは違ったスタートとなりましたが、ご利用者様が笑顔で過ごせるように色々な場面での楽しみを増やしていきたいという気持ちはこれまでと変わらず、昨年度の厳しい生活を経験したからこそ、そのような思いはより一層強くなりました。

今年度の入所部はご利用者様の楽しみを増やしていけるように日中活動や余暇活動などを見直し、「withコロナでも楽しみを!」というテーマで職員同士で意見を出し合いながら、また新たな入所部を創っていきます。マネージャーとして酒井サービス管理責任者のサポートはもちろん現場職員、その他の関係職員とも協力しながらめいとくの里での生活を刺激のある楽しい日々ができるように努めていきます。

チャレンジめいとくの里
副施設長兼
通所部サービス管理責任者
福山勝弘



今年度から入所部の男性マネージャーを任せて頂くことになりました。椿健生です。よろしくお願ひ致します。
 めいとくの里に勤めて7年目になりました。そして私がめいとくの里に入職した時にチューターをして頂いた支援員の方も、当時7年目の支援員でした。その方はご利用者様の楽しいを一番に考えて支援に取り組まれている方で、いつも笑顔でご利用者様と関わっていらっしゃいました。その姿を見て「いつかは自分もこんな支援員になりたい!」と思いながら業務に取り組んでいたことを今でも覚えています。そして現在、私はその支援員の方に教えて頂いた「自分が楽しめないご利用者様も楽しめない。」の言葉を胸に支援に取り組んでいます。

私の方からは、今年度の入所部の活動内容についてご紹介させていただきます。今年度の入所部では、3つの体制から活動作りを行っています。1つ目は作業班です。作業班はフルーツキャップをメインとした班となっています。また作業だけでなく、近くの公園までドライブしてウォーキングや工賃外出なども計画しています。2つ目は個別活動班です。個別活動班では、ご利用者様一人ひとりの特性に合った個別活動を用意し、午後の活動の時間に取り組んで頂けるよう準備しています。また自立課題だけでなく、マッサージマットや足湯などを用意したりラックススペースを設けることで、ご利用者様のその日の調子に合わせた選択肢を提供するといった、毎日の活動の基盤となる日中活動を創り上げていく班となっています。3つ目は楽しみ班です。昨年度から続くコロナ禍の影響で、「安全確保」「感染拡大防止」などご利用者様の個別外出や帰省時の外出を抑えて頂き、安心した生活を全体的に送れるように配慮してきた半面、ご利用者様に「楽しみ」を提供する機会が少なかった年でした。その為、今年度から、新しく楽しみ班を設立し、少人数でのドライブ外出やテイクアウト企画、ミュージアムなどコロナ禍でも施設の中で楽しめるようなイベントを計画立案、実行していく、昨年度に実施できなかったご利用者様の「願ひ」を叶え、「楽しみ」を引き出す班となっています。

新しい体制の中でご利用者様の生活が少しずつでも豊かな方向へ進んでいけるように、そして何よりご利用者様が「楽しかった!」と思って頂けるような入所部を目指していきます。



チャレンジめいとくの里
 入所部 男性棟マネージャー
 椿健生



ケア・ハビネス
 サービス管理責任者兼
 マネージャー
 山本志織

今年度より、ケア・ハビネスのサービス管理責任者兼マネージャーを務めることになりました山本です。どうぞよろしくお願ひいたします。

ケア・ハビネスは今年で7年目に入りました。私は立ち上げの時から関わらせていただいているので、勉強のためたくさんの方の県内外の施設を見学させていただいた時のこと、どのようなハビネスを作り上げていこうかと先輩方と話し合っていたことを懐かしく感じると共に、たくさんのご利用者様がいらっしゃる今のハビネスを見て、時の流れの速さに驚いています。

今年のハビネスは「動く」をテーマに掲げています。ハビネスでは、地域の方との交流も目的としている「ハビネスランド」や1年の活動をご家族の方へ紹介する家族説明会、その他季節のイベントを実施してきましたが、昨今の新型コロナウイルスの影響で、多くの方が集まることが難しくなりました。ですが、コロナだからできないではなく、コロナ禍でできることは何か、ご利用者様の楽しみをどうやっていくのかに焦点をあて、動いていきたいと思っています。

先日はゴールデンウィークのイベントとして、ご利用者様にこいのぼりを作っていたり、デザートのカスターリングカーを作り、ご利用者様自身が買い物をするという機会を設けました。またその様子を生中継したり新人紹介などを動画配信サービス(ZOOM)を使って、ご家族の方へ配信しました。動画を配信するというはコロナがなければ生まれなかったアイデアかもしれません、動画を配信することで、普段は見ることのできないご利用者様の様子を、ご自宅にいながらご家族の方に見ていただくことができました。

状況にはよりますが、これから予定しているイベントなどの中身をどうしていくのか、ハビネスが大事にしている地域との交流・関係性をどのように維持していくのかなど、課題はたくさんあります。ご利用者様の普段の生活においても、新型コロナウイルスの影響で難しくなったことがあります。このような状況ですが、新しいものを生み出すチャンスと捉え、職員で新しいアイデアを出し合い、動き、反省は次に活かし、ご利用者様が「明日もハビネスに行きたい」と思っただけのような場所作りをこれからも行っていきます。

特集
 ごあいさつ
 2021年度事業方針
 RELIEF
 SAFETY
 RELAX
 MEITOKUKAI



ケア・ハビネス
 施設長補佐 サービス管理責任者
 村上学

ケア・ハビネス(以下ハビネス)はこの春で開所から7年目を迎え、私もサービス管理責任者として4年目を迎え、施設長補佐という役職も拝命しました。まだまだ頑張らなくてはと思っています。

さて、ハビネスはいよいよ10周年が近づいてきた中で、今年度は「動く」をテーマに進めていきたいと思っています。

事業所が7年を経つと少しマンネリ化してしまいうる時期でもあります。しかし、ハビネスはそうならない為に、失敗しても良いからクリエイティブに一歩踏み出してみようと思ひ、イベントを企画して普段の支援の中でも今までに無いような「面白い」と思えることにチャレンジしていきます。

その先駆けとして、昨年度末に開催した家族説明会でzoom(インターネット)を利用して開催しました。画面を通してですが、ご家族へ説明し、お話を伺ったり、良い時間を過ごすことが出来ました。ハビネスにはまだ家族会がないので、通所だとな

かなか顔を合わせる事のないご家族の関わりが、少しですが持っている時間になりました。

「コロナ禍だからできない」と思っても何もしないよりも「これならできる」ということを見つけ、今までにない企画やコロナ禍だからこそ思いつく企画をたくさん実現していきます。

その中で、「楽しからずに行きたい」「楽しそうにしているから行かせたい」と言われる場所である為、ご利用者様・ご家族・職員みんなが楽しめる事柄を提供し、みんなの「楽しい」が詰まったハビネスを更に大きくしていきたいです。

また、今後にも向けて動きを始める時期でもあります。冒頭に記したように10周年が近づいてきています。ハビネスは重症心身障害者の方が利用できる施設です。医療的ケアが必要な方もおられる、法人内で一番ケア度が高いグループがあります。そういった方々が抱える課題にも目を向け、少しでも対応できるように考えていきたいと思っています。

私自身、福祉職に就いて17年目を迎えてまだまだ勉強しているかなければならないと感じています。日々新しい情報が更新されていく中で、その波にしっかりと乗れるようにし、いろいろな方の思いを支援に乗せていきたいと思っています。皆さんの思いをたくさんお聞きしながら、関わる方々の「笑顔」をたくさん見られるように、業種に関わらず様々な事柄をアイデアとして受け止め、研鑽を積んでいかなければと思います。

別の事になりますが、私はフットベースボールという障がい者スポーツの指導や、協会運営も行っています。コロナ禍で練習や大会などは今できませんが、出来ることを考えて日々こちらも奮闘しております。

昨年度に引き続き、ゆめくらしワークス事業部生活訓練と就労継続支援B型のサービス管理責任者をさせて頂いたことになりました福田悟と申します。

私は、平成30年12月、ゆめくらしワークス事業部に就労定着という新しい福祉サービスを開所するに当たり、前任の中田から引き継ぐ形でサービス管理責任者として仕事をさせて頂き始めて今年で3年目を迎えます。

サービス管理責任者になって1年が経過し、ようやく業務に慣れ始め、2年目を迎えようとした年に新型コロナウイルス感染症が話題になり始め、その時はまだ対岸の火事という認識だったのですが、熊本でも感染者が出て、あれよあれよという間に感染者が増え、身近に濃厚接触者が出るなどして、いよいよ他人ごとではなくなり、各活動でも例年参加していた各イベントの中止や外部販売活動の自粛等でB型収入の大幅減や外出や社会体験など外部活動の自粛などを余儀なくされ、めいとくの里にとっても、ご利用者様にとってもコロナに振り回される年でした。

このコロナによってもたらされたピンチですが、中でも試行錯誤しながら「withコロナ」という新しい生活様式の中で、必要と思えるものをその時にできる形で実施していき、ご利用者様には、何かと我慢を強いような状況でしたが、現在まで一人の感染者を出すことなく過ごすことができています。制限のある生活の中でも、こんな時だから、こんな状況だから「できない」、「やらない」ではなく、「どうすればできる」という新しいアイデアを生み出すチャンスと捉えて、新しい形でさまざまなことにチャレンジしていきたいと思っています。今後モクチンが普及するまでは、まだ同じような状況は続くと思われそうですが、皆さまのご理解とご協力を得ながら事業を進めていきたいと思っています。

以前のような生活に戻るまでは時間がかかると思いますが、新しい生活様式の中で一人一人のご利用者様の夢や希望の実現に向けてサポートしていく事業所作りはこれからも変えることなく続けていきますので、今後ともよろしくお願ひいたします。



チャレンジめいとくの里
 ゆめくらしワークス事業部
 サービス管理責任者
 福田悟

RELIEF SAFETY RELAX MEITOKUKAI

2021年度 事業方針

特集

ごあいさつ

本年度よりゆめくらしワークス事業部で就労移行支援と就労定着支援のサービス管理責任者を務めさせていただきます平野です。明徳会に入社してあっという間で、11年目を迎えました。生活介護で3年間、その後就労移行支援で7年間の勤務経験をさせていただきました。これまでの先輩職員の皆さんから受け継いだ「明徳会の職員らしさ」で、これからも仕事に対して新鮮な気持ちで日々の仕事に取り組んでいきたいと思っています。

コロナ感染症が流行して1年が過ぎ、熊本地震からは5年の月日が経ちましたが、この5年間を振り返ると50名以上のご利用者様が一般企業へ就職されました。ご利用された皆様が自分らしい生活を実現されたことを嬉しく思いま



チャレンジめいどくの里
ゆめくらしワークス事業部
サービス管理責任者
平野 佑典

す。とはいえ、昨年度は、コロナ感染症が流行する前であれば可能であった企業見学や実習が、思うように進められないことも経験しました。このような大変な状況にありながらも、ご利用者様、ご家族、私たちが職員の思いを理解していただき、実習経験の場を提供していただいたり、就職のご縁を結ばせていただいた企業の皆様に深く感謝しております。

これからは、新しい生活様式の中で、これまで当たり前とされていた働き方にプラスして、新しい働く形を考えていく転換期にあり、私たち社会福祉に関わる者として大切にすることを改めて見つめ直すことができる機会だと考えています。

私が大切にしている言葉に、「支援してほしいのではない。理解してほしい。」という言葉があります。この言葉には、「相手のことを理解し、思いに寄り添うことから支援が始まる。」というメッセージが込められていると思っています。ご利用者様の働く生活の夢や希望の実現のために、皆様それぞれの思いに寄り添いながら、ご利用者様、ご家族、そして企業の皆様が、安心して安定した仕事の継続と信頼関係を築いていただけるように、職員一丸となって就労支援に取り組んでいきます。また、就労支援の仕事を通して、地域の社会福祉ニーズを掘り起こし、誰もが安心・安全・安らぎを感じられる地域作りに貢献していきたいと思っていますので、どうぞよろしくお願いたします。

になれたらと思っています。

この仕事をさせて頂く上で、大切にしていることは、まず『必要最低限の手厚いサポート』と『主役は働く本人と企業』ということです。有期限のサービスですので定着支援員やジョブコーチはいずれなくなっていく存在です。そのことを常に意識し、前に出さず、本人の働きたいという気持ちの後押しをすること。支援員が一般的なアドバイスをすることはなく、本人の考えや気持ちを整理したり、何かしら改善したいという気持ちがある場合はその方法を一緒に考えること。支援員がメッセージャーになるのではなく、企業と御本人の気持ちを通じ合わせるきっかけ(場)をつくることなどが大切な役割だと思っています。サポート方法に『こうしたければならぬ』というものはありません。御本人、企業等にあった方法でサポートを行いたいと思っています。

次に『連携』。支援員個人の力は微々たるものだと思います。地域にはそれぞれのスペシャリストがたくさんいらっしゃいます。そのような方々と連携して働く生活を応援していきたいです。

そして、働く本人、企業や地域、家族から安心してもらえる『しごとサポートセンター』になることを目指していきます。ありがとうございました。

PICK UP! ゆめくらし事業所 アクアテラス

2020年9月に、新たにグループホームアクアテラスがオープンしました。オレンジハウスの横にある木目と黒壁のスタイリッシュな建物です。内部は一転、アクアを意識した、爽やかで明るく、落ち着ける空間が広がっています。すでに定員10名中8名の方が入居されていて、毎日賑やかに生活されています。



今年度、ゆめくらし事業所(共同生活援助)管理者兼サービス管理責任者を務めさせていただきましたことになりました。微力ではありますが、入居者様、地域での生活に一步を踏み出したいとお考えの障がいのある方々のために精一杯努力してまいりたいと思いますので、今後ともよろしくお願いたします。



ゆめくらし事業所
管理者兼サービス管理責任者
中島 裕輔

私は、昨年度まで熊本市障がい者相談支援センターチャレンジにて相談業務に3年間従事しておりました。福祉系の大学を卒業し、それまで10年以上障がい福祉に携わっていましたが、自分の見識の狭さや考えの浅さ、無力さに痛感するばかりの日々でした。しかし、これまでよく知らなかったサービスを知ることができ、相談支援に従事していなければ出会わなかった方々との関わりの中で、ソーシャルワーカーとして少しは成長することが出来たかなと思っています。

また、様々なケースに対応する中で一つのサービスへ繋ぐことが、どれだけ大変なのかを知ることができました。入居されている皆様が、オレンジハウス、アクアテラスをご利用されるまで、ご家族とどのような思いで暮らしておられたのか、関係者の方々はどのようにサポートしてこれたのかを想像すると、今あるご縁は当たり前ではなく、奇跡なのだと思います。

相談業務で学んだこと、新たに考えるようになったことを胸に、今年度のゆめくらし事業所は「きょうよう(今日、用がある)」「きょういく(今日、行くところがある)」の視点を大切に」を事業方針にいたしました。新型コロナウイルスの影響により、感染防止のため入居者様が思うような地域生活を提供できない状況が続いております。終日を通してグループホーム内で過ごさなくてはいけないこともありました。しかし、それでも「今日はこんなことをして過ごしたい」「じゃあ明日はあんなことをして過ごそうかな」と希望が持てる生活、「何もすることがない、したいことがない」が無い生活を作り上げていきたいと考えています。そして思うような生活ができない今だからこそ、どうぞすれば入居者様が地域の中で生活している実感を得られるのか、自立して生活している喜びを感じていただけるのか、丁寧にアセスメントしていきたいです。

今年度より、市内に9カ所ある熊本市障がい者相談支援センターが地域生活支援拠点の中核となり、地域で障がいのある方やそのご家族が安心して生活できる地域の体制づくりを行う地域支援員が配置されました。ゆめくらし事業所も、体験の機会・場所の提供の役割を担っています。明徳会に限らず、地域にお住いの方のためのゆめくらし事業所を目指し、新たなご縁を通して入居者様、私たち支援者も刺激を受けながら成長し続けていきたいと思っています。

今年度4月からゆめくらし事業所のマネージャーに任命されました今井千春です。よろしくお願致します。明徳の里に入職して11年目で、ゆめくらし事業所のマネージャーとして3年目です。私は、小学校の時から障がいを持っている方と関わることもあり、地域のボランティアで明徳会を知り、少しでも障がいを持っている方の役に立ちたいと思い、明徳の里へ入職したと思います。私は、入居者様の思いに寄り添い、入居者様が「自分らしく」地域の中で生活できるよう支援していきたいと思っています。



ゆめくらし事業所
マネージャー
今井 千春

毎年、入居者様と日々楽しめるように外出等を設けていたましたが、新型コロナウイルスの影響により、入居者様の日々の暮らしが変わり、外出の制限によりグループホーム内で過ごさなければならない日もありました。新型コロナウイルスの対策を行いながら、今後入居者様の日々の楽しみを見出したいです。

今年度の取り組みとして、健康に通所へ通えるようにリビングにて「健康体操」「太極拳」を行ったり、入居者様のグループホームでの生活をより充実して頂く為に、「生け花」や「スクラッチアート」のレクリエーションを行いたいと思います。又、入居者様の要望を聞き取り、花火やパン作り等を実施することで入居者様の楽しみを増やしていきたいと思っています。

又、新型コロナウイルスの対策を行いながら、地域のお店や美容室を利用し、地域の方々との交流を深め、地域生活の充実を図りたいと思います。



チャレンジめいどくの里
ゆめくらしワークス事業部
マネージャー
吉田 智和

明徳会法人本部で統括総務事務部長を務めさせていただいております戴下と申します。

さて今年度は、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症の予防や対策などに追われるとともに、3年に一度の障害福祉サービスの報酬改定の年を迎え、例年以上に慌ただしいスタートを迎えることとなりました。

昨年度は、徐々に熊本県内でも新型コロナウイルス感染症が広がり始め、私たち統括総務事務部も感染対策の物品購入や備蓄整理、感染予防の情報の法人内共有、感染対策助成金の申請など、通常の業務に加え様々な準備を手探りで行ってまいりました。一度は落ち着きを見せたものの、全国的に感染の再拡大が見られます。今年度も引き続き感染予防の対応を行い、ご利用者様、ご家族様に「安心、安全、安らぎ」を感じていただけるように取り組みを続けていく所存です。

また、この数年は、新型コロナウイルス感染症の他にも、明徳会を取り巻く状況は大きな変化を迎えています。開所時は30名に満たなかった職員数も今年度は130名を越すなど、大きな組織に成長しているとともに、「安心、安全、安らぎの福祉社会の創造」の理念にそった支援施設としての役割に加え、働く場として、職員への働き方改革の実施やSDGsへの取り組みなど、

社会的な責任にも答えていく社会資源としての役割も担うようになってきています。

私個人としては、今年度で明徳会に入社し15年目を迎える年であり、生活支援員として5年間勤務させていただきました。統括総務事務部に異動してからは10年目を迎える年でもあります。また私事ながら、今年は40歳の節目の年を迎え、様々な区切りを感じております。その様な区切りの年として、今年度は、「支える人を支える仕事」を目標としているところです。先に述べました通り、明徳会の職員数は130名を超え、大きな組織となるとともに、各事業所、サービスでそれぞれ専門的な取り組みに特化することや、昨今の状況もあり法人一体となつてめいどくフェスタの様なイベントが実施できないこと、法人として一体感を感じることが希薄になっていると感じる場面もあります。今一度当法人の理念である「安心、安全、安らぎの福祉社会の創造」を見つめなおし、法人一体となった職員の育成や明徳会のブランドづくりに取り組んでいこうと考えております。自分自身も明徳会を支える1職員として研鑽を重ねながら、これからの明徳会を支えていく若い職員へとタスキをつなぐ役割を持ってたらと考えております。



法人本部
統括総務事務部長
戴下 智裕

SUPPORTER

サポーター

歯科診療の為、訪問させていただくようになり、2年目を迎えました。きらら歯科クリニックは、利用者様とのコミュニケーションに重点を置き、診療中あるいは診療後も変わらず、利用者様の生涯を通して、お付き合いいただけるクリニックを目指しています。

ご利用者様にお口のごことお困りがあれば、まずは小さなことでも気持ちを伝えてもらえる関係でありたいと願っています。大きな治療が必要とならないよう、日々の口腔ケアを中心に関わらせていただいておりますが、必要な場面では、ご本人様をはじめ、ご家族様、職員の皆様の思いに寄り添い、他科とも連携をはかりながら、治療に関しても選択できる環境をご提供致します。

いつも皆様にはご協力いただき、感謝申し上げます。生涯、おいしく食事を食べられますように…



きらら歯科クリニックの皆様
いつも笑顔でご利用者様に
寄り添っていただき、
ありがとうございます。
今後もどうぞよろしく、
お願いいたします。



フェイス Face

毎日のテレビや新聞等のニュースでも報じられていますように新型コロナウイルスの感染拡大が非常に心配される所ありますが、ご家族の皆様並びに関係機関・関係者の皆様にはお元気で過ごしのことと存じます。

さて、私、平成25年(2013年)10月にチャレンジめいとくの里施設長代理として明徳会にお世話になり、翌年の平成26年(2014年)4月から松村施設長の後任として施設長を7年間勤めさせていただきました。施設長就任中はご利用者様の笑顔に、また、ご家族の皆様や心温まるお言葉に助けられ、さらには、関係機関・関係者の皆様の厚いご支援により、お陰様で無事に退任の日を迎えることができました。ご利用者様並びにご家族の皆様には心から感謝しております。本当にありがとうございました。

施設長退任後は、熊本市北区で新たに開所しました熊本市障がい者相談支援センターチャレンジの管理者として、さらに、チャン

ジめいとくの里ゆめくらしワークスコーディネーターとして、引き続き明徳会で勤務させていただくことになりました。

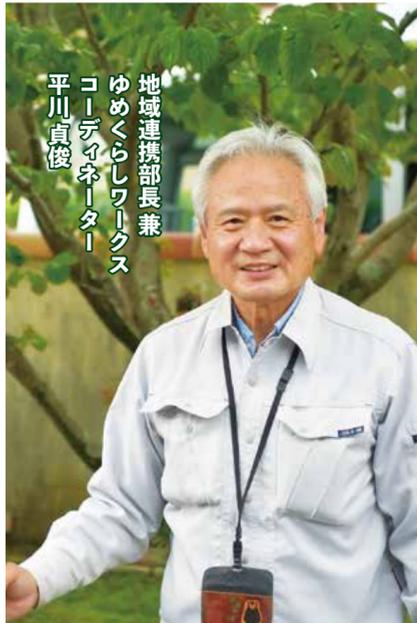
はじめに、熊本市障がい者相談支援センターチャレンジでは、園田センター長を中心に地域にお住まいの障がいのある方が、住み慣れた地域で安心・安全に地域生活を継続していただくことができるよう関係機関や関係者と連携し、支援していくことや地域で障がい者差別解消や障がい者理解の促進に向けた取り組みなどを行ってまいります。詳しくは園田センター長の紹介をご覧ください。

次に、ゆめくらしワークスのコーディネーターとしては、ご利用者様の働く力や生活する力が最大限に発揮していただけるように職員が支援できる環境を共に考えていきたいと思います。その他、農業と福祉の連携による様々な取り組みを行うなかでB型事業所のスタッフ(ご利用者様)の工賃向上をB型事業所の職員と連携しながら取り組んでいきたいと考えています。いずれの事業も私にとってまだまだ未知な部分が多いですが、地道に取り組み、一歩一歩前進していきたいと考えております。今後ともご利用者様・ご家族の皆様のご協力とご支援、また、関係機関・関係者の皆様のご理解とご支援を賜りますようよろしくお願いいたします。



私はこの度、チャレンジめいとくの里へ看護師として入職することになりました荒木ふみと申します。前職では、障害児支援施設に勤務していました。様々な分野での看護師としての経験を活かし、利用者様の体調変化に気づき、早期発見、早期治療に導くことが出来ればと思っています。4月5日に入職しましたが、日々、利用者様の体調管理、外来受診、様々な場面での判断力や内服管理などを沢山学ばせていただいております。

また、就職して支援員さんとの連携を目の当たりにしました。いつもと違うという状況を迅速に判断し、スタッフ全員で周知する姿勢が素晴らしいと思いました。私も、スタッフの一員として利用者様のサポートを出来るように努力していきたいと思っています。どうぞ、よろしくお願いいたします。



NEWS

熊本市障がい者相談支援センター チャレンジOPEN!!

熊本市障がい者相談支援センターでは、障がいのある方やそのご家族などからの日常生活や福祉に関する様々な相談をお受けします。また地域の方や関係機関の方からの障がいのある方の支援に関するご相談にも応じます。相談は無料です。お気軽にご利用ください。



- (相談できること)
 - サービスの利用に関する相談
サービスに関する情報提供、サービス利用の助言や利用申請の援助、関係機関との調整
 - 暮らしに関する相談
各種手続き、お金の管理や年金、住まいや移動手段、趣味や余暇活動に関する相談
 - 専門機関の紹介
相談する方の状況に合わせて、就労の支援を行う機関や医療機関などの専門機関の紹介
 - 権利擁護に関する相談
成年後見制度に関する相談、障がい者虐待や差別解消に関する相談
 - 地域で困っている障がいのある方の支援
生活面で困っている障がいのある方がいた場合に自宅を訪問するなどの相談対応
必要に応じてサービスの利用などを調整
- ※その他にもさまざまな困りごとの相談を伺います。障がいのある子の将来が心配、障がいのある子どもが長年引きこもっていて今後心配、ピアカウンセリングに関する事など

- 利用対象者
・市内にお住まいの障がいのある方やそのご家族(介護を行う方を含む)
・地域にお住まいの方
・障がい福祉サービス事業所などの関係機関
- 相談について
・お住まいの区に限らず、ご利用しやすいセンターをご利用ください。
・障がいの種別(身体、知的、精神、発達障がい、難病 等)や、年齢、障がい者手帳の有無等を問わずご利用いただけます。
・お電話・FAXでの相談、センターへの来所相談、また、必要に応じてお宅への訪問等にも対応いたします。その場合は事前にお電話等でご相談ください。
・詳しくはそれぞれのセンターへお問合わせください。



平成30(2018年)4月より令和3(2021年)3月までの3年間、チャレンジめいとくの里サービス管理責任者(入所部)として、ご利用者様に明徳会の理念でもある【安心・安全・安らぎ】の提供継続ができるよう、また、北区地域の障がい者への理解・啓発につながるよう取り組んできたところですが、熊本県では令和2年2月頃より新型コロナウイルス(COVID19)の感染者が確認されはじめ、徐々に感染が広がり、他県においては障がい者支援施設におけるクラスター(集団)感染により大きな被害も出ている状況がありました。県内での高齢者施設等での発生状況からも

チャレンジめいとくの里に新型コロナを発生させてはいけないという強い気持ちを持って対策に取り組んだ反面、特性上、新型コロナへの理解が難しい方々にとっては、生活の中の"楽しみ"の部分に制限をかけるをえない状況に葛藤の日々でした。飲食店への外出、人が集まるイベントはもちろん、家族会の開催も中止が続いています。退任のご挨拶もままならず、ご利用者様・ご家族の皆様には大変な失礼をしているところで申し訳ありませんが、この書面をもって挨拶に代えさせていただければと存じます。温かいお声かけやご支援、本当にありがとうございました。また、大変な状況が続き、いくつもの課題を残したままの状況の中、後任を引受け、相談業務に送り出してくれた酒井新サービス管理責任者をはじめ、その他の支援者の方々へも深く感謝しております。今後のご利用者様支援も宜しくお願いいたします。

さて、「熊本市障がい者相談支援センター チャレンジ」は熊本市障がい者相談支援業務委託(中央1圏域)の1期(3年)を終え、2期目となるR3年度からは圏域を北2へ変えて、国道3号線沿い

北部中学校前でスタートしています。

前任の中央区でも「連携と啓発」を意識しながら相談者一人ひとりに寄り添い、関係機関と連携したチーム支援を目指してきたところですが、今期より各委託相談支援事業所(9ヶ所)に地域支援員が配置される等、基幹相談支援としての役割も大きく変わり、地域における各種関係機関との連携、障がい者(児)への理解促進・啓発活動が今後の障がい者施策の中でも重要になってくるところと感じています。

法人本部がある北2圏域での相談支援業務ということで、これまで明徳会で取り組んできた部分と前委託相談支援事業所などでし様が構築されてきた部分を融合させ、障がいがある方もそうでない方も安心して暮らせる「ず〜っと住みたい」わがまち北区「]のまちづくり」に基幹相談支援センターとして参画できるように、明徳会が北区に必要な存在になれますように、コロナ禍ではありますが「チャレンジ」のスピリットで取り組んでいきたいと思ひます。今後の応援も宜しく願ひいたします。

THANKS FEEDBACK



九州看護福祉大学の学生さんから
ソーシャルワーク実習を終えて
お礼のお手紙をいただきましたので
ご紹介いたします。

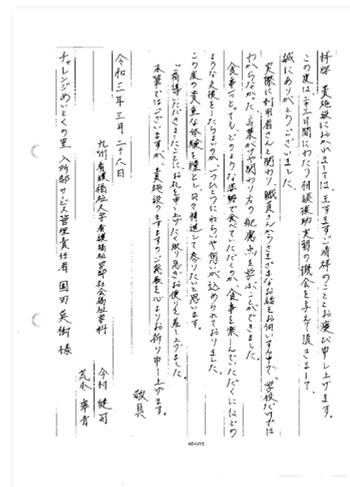
「ソーシャルワーク実習 お世話になりました」

実習期間:令和3年2月8日~3月12日(23日間)
実習事業所:チャレンジめいとくの里 生活介護事業
実習生:九州看護福祉大学 看護福祉学部 社会福祉学科
今村 健司さん 荒木 寧音さん

拝啓 貴施設におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。この度は、23日間にわたり相談援助実習の機会を与えて頂きまして、誠にありがとうございました。

実際に利用者さんと関わり、職員さんからさまざまなお話を伺いする中で、学校だけではわからなかった、言葉がけや関わり方の配慮点を学ぶことができました。食事一つとっても、どのような姿勢で食べていただくのか、食事を楽しんでいただくにはどのような支援をしたらよいのか、一つひとつにのらや想いが込められておりました。

この度の貴重な体験を糧とし、日々精進して参りたいと思ひます。ご指導いただきましたことに、お礼を申し上げたく取り急ぎお便りを差し上げました。



今村 健司さん



荒木 寧音さん

末筆ではございますが、貴施設のますますのご発展を心よりお祈り申し上げます。

敬具

令和3年3月26日
九州看護福祉大学 看護福祉学部 社会福祉学科

今村 健司
荒木 寧音

障がい者支援施設

チャレンジめいとくの里

生活介護 施設入所支援 短期入所 日中一時支援
 〒861-5503 熊本市北区明徳町707-1
 TEL096-215-9101 FAX096-245-2344
 mail:c.meitoku@meitokukai.jp

ゆめくらしワークス事業部

就労移行支援 就労定着支援 生活訓練
 就労継続支援B型
 TEL096-215-9103 FAX 096-273-6343
 mail:meitokunosato-works@meitokukai.jp

障がい者グループホーム

ゆめくらし事業所

共同生活援助
 オレンジハウス
 〒861-5503 熊本市北区明徳町948-1
 TEL096-223-5161 FAX096-245-5951
 mail:yumekurashi-orange@live.jp

アクアテラス

〒861-5503 熊本市北区明徳町951-1
 TEL096-245-5522 FAX096-245-5520

障がい福祉サービス事業所

ケア・ハピネス

生活介護
 〒861-5512 熊本市北区梶尾町1379-3
 TEL096-245-6611 FAX096-245-3399
 mail:happiness@meitokukai.jp

熊本市障がい者相談支援センター

チャレンジ

相談支援事業
 〒861-5516 熊本市北区梶尾町415-1-1F
 TEL096-215-9500 FAX096-215-9501
 mail:soucha@meitokukai.jp

地域生活支援センター

メイト

相談支援事業
 〒861-5503 熊本市北区明徳町948-1
 TEL096-227-6450 FAX096-227-6451
 mail:mate@meitokukai.jp



OFFICIAL WEBSITE

<http://www.meitokukai.jp>



明徳会 facebook
<https://www.facebook.com/meitokukai>



明徳会 instagram
<https://www.instagram.com/meitokukai>



RogCafe instagram
<https://www.instagram.com/rogcafe/>



ケア・ハピネスinstagram
<https://www.instagram.com/care.happiness>



ゆめくらしワークス facebook
<https://www.facebook.com/yumekurashiworks>



めいとく日和BLOG
<https://ameblo.jp/meitokukai>



熊本市障がい者相談支援センターチャレンジ
 @csu2434m



「障がいがあってもなくても、誰もが能力を発揮でき、いきいきと暮らせる熊本市」を目指して、「障がいサポーター制度」の普及などに積極的に協力する企業や団体として「障がい者サポート企業・団体」として認定されました。



「明徳会」は、働く人がいきいきと輝き、安心して働き続けられる企業「ブライト企業」に認定されました。
 ※ブライト企業とはブラック企業と対極の企業をイメージした熊本県の造語

毎日更新のデジタル広報紙! 明徳会の各SNSを是非CHECKしてください。

